

RICOH REPORT

2015

夏号

Contents

- 1 リコーグループについて
 - 3 トップメッセージ
 - 7 決算レポート
 - 9 サステナブルな企業活動
 - 11 ニュースファイル
 - ▶ [RICOH Future House]で体験学習サービスを開始
 - ▶ カラープロダクションプリンター「RICOH Pro C7100シリーズ」を発売
 - ▶ さまざまなシーンに活躍する多彩なカメラを発売
 - ▶ [Top100 グローバル・イノベーター2014]に選出
 - 13 株主様インフォメーション
- 裏表紙 株主メモ、INFORMATION

リコー グループについて

リコーグループは、約200の国と地域で、事業を展開しています。

人と情報のかかわりの中で常に新しい価値を生み出す製品—

オフィス向け画像機器、プロダクションプリンター、サプライ製品、デジタルカメラ、

またサーマルメディア、半導体、FAカメラなど産業用製品—、

さらにマネージド・ドキュメント・サービス(MDS)、ITサービスを含むさまざまなサービス事業や

ソリューションといった幅広い分野でビジネスを行っています。

高い技術力に加え、リコーグループの際立った顧客接点力や

持続可能社会の実現への積極的な取り組みが高い評価をいただいています。

数字で見る リコー

連結売上高

2兆2,319億円
(2015年3月期)

事業エリア

全世界
約**200**の国と地域
(2015年3月31日現在)

A3レーザー 複合機/コピー機

世界シェア**1**位*1
(2014年出荷台数)

2014年度のレビュー

2014年

4月

- 新入社員が宮城県南三陸町で復興支援

5月

- 国連 世界環境デーに全世界で一斉消灯

6月

- 株主優待制度導入

7月

- 銀座4丁目交差点に、100%自然エネルギー広告塔完成
- 3Dプリント関連事業に参入
- 「世界銀行グループ・カーボンプライシング支援イニシアティブ」および「1兆トン共同声明」に賛同
- 「Dow Jones Sustainability Indices」構成銘柄に採用

8月

- リファクス600S、未来技術遺産に登録

9月

- 国内販売会社リコーテクノシステムズ、リコービジネスエキスパート、およびリコー ITソリューションズの一部をリコージャパンに統合
- 韓国ITサービス企業を買収



社会的責任投資
インデックス^{※2}

12年連続採用
(2014年12月現在)

国内外特許
保有権利数

48,446件
(2014年3月31日現在)

※1 単機能コピー機を含む
出典：IDC's Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker, 2015Q1
注) IDCではベンダー出荷実績の差が1%未満の場合、タイ(同位)として扱います。
※2 FTSE4Good Index Series

● 「Top100 グローバル・イノベーター2014」に選出 [詳細はP12へ](#)

● 省エネ大賞「省エネルギーセンター会長賞」を受賞 [詳細はP9へ](#)
● oekom社のサステナビリティ格付けにおいて「Prime」の評価
● 世界的SRI評価会社RobecoSAM社のサステナビリティ格付けで「シルバー」クラスに選定 [詳細はP10へ](#)

● リコージャパン、国連防災世界会議にITシステムを提供
● ドバイに中東地域の統括会社を設立

2015年

10月

11月

12月

1月

2月

3月

- 産業向け事業の強化に向け、リコーインダストリアルソリューションズおよびリコー電子デバイスを設立
- 「リコーえなの森」保全活動を開始
- ソリューション・サービスをICEFに提供
- CDPIにより気候変動情報開示先進企業に選定

- 「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」受賞 [詳細はP9へ](#)
- 「FTSE4Good Index Series」継続採用
- 米PTI社を買収

- 累計約9万枚の写真が持ち主のもとに一セーブ・ザ・メモリープロジェクト終了 [詳細はP10へ](#)
- 世界で最も倫理的な企業「World's Most Ethical Companies 2015」に選定



三浦社長に聞く

第18次中期経営計画の進捗と 2020年とその先を見据えた変革

代表取締役 社長執行役員・CEO

三浦 善司

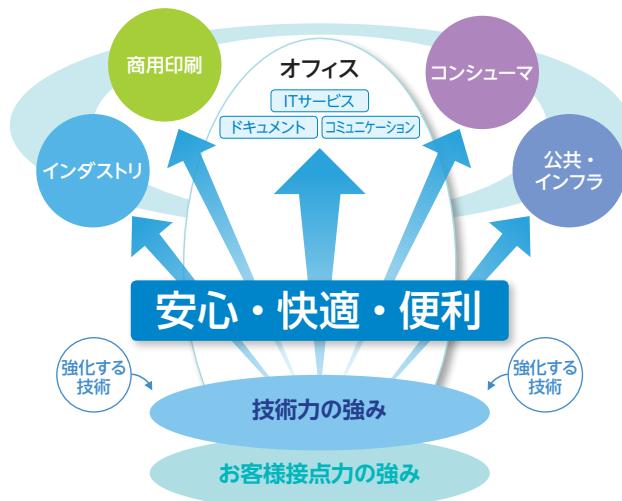
リコーグループが目指す未来の姿

Q リコーグループが目指す未来の姿は
どのようなものですか。

第18次中期経営計画(以下、18次中計)策定時、リコーグループは中長期の目指す姿を「お客様の期待を超えた、安心・快適・便利を提供し、ライフスタイルの変革を支援する環境にやさしい会社」と決めました。

リコーグループは社会が目覚ましく変化する中でも着実に成長と発展を重ね、2016年に創立80周年を迎えようとしております。会社が長年にわたり存続しているのは、いつの時代もお客様の課題解決に役立つ製品やサービスを提供してきたからであり、これからも新しい価値をお客

リコーグループが2020年とその先を目指す姿



様に提供し続ける会社でありたいと思っています。

2014年度から始まった18次中計は、リコーグループの長期的発展を確実にする変革の3年間と位置付けております。

18次中計の基本戦略と進捗状況

Q 18次中計の基本戦略とはどのようなものですか。

リコーグループの基盤であるオフィス事業領域では、お客様満足と徹底的な生産性の向上により収益を最大化し、そこで得られた収益を新しい事業領域に投資し、新たな事業の柱の構築を進めます。

■ 18次中計からの事業領域



「オフィス事業領域での収益力強化・成長」のために、先進国においては複合機・プリンターなどの製品ラインアップを強化するだけでなく、世の中の働き方の変化に先駆けたITサービスやコミュニケーション関連製品の拡充を行います。また、新興国においては、マーケティングおよび販売体制の強化を行うことで、お客様のご要望に合わせた製品・サービスを提供していきます。

さらに「新たな事業の柱の構築」に向け、リコーグループの強みであるお客様接点力、技術力に立脚した商用印刷・インダストリ・コンシューマの各事業領域、および、新しい領域での成長を加速させます。

これらの基本戦略を着実に実行し、18次中計最終年度では以下の目標の達成を目指しております。

■ 18次中計最終年度目標値 (2014年4月発表)

売上高	2兆5,000億円以上
営業利益	2,000億円以上
営業利益率	8.0%以上
ROE	10.0%以上
総還元性向	30.0%程度

1ドル=100円、1ユーロ=140円

18次中計の1年目であった2014年度の 主な施策の状況について教えてください

オフィス事業領域では、複合機・プリンターの競争力を高めるために機種ラインアップを拡充し、シェアの拡大をはかりました。また、海外のITサービス企業の買収等によるサービス事業の強化、ビジュアルコミュニケーションにおける新製品の投入などを通じて、お客様の働き方を変革する取り組みを行っています。新興国においては、お客様のニーズに合った付加価値の提供を強化するために、ドバイに中東地域統括会社を設立し、2015年4月より本格的な営業を開始しました。

商用印刷事業領域では、請求書などの基幹業務印刷やダイレクトメール等の印刷まで幅広く対応する「RICOH Pro VC60000」の投入により、印刷事業者様の業務拡大に貢献します。また、企業内集中印刷や商用印刷市場におけるサービスを拡大するために、米PTI社の買収やダイレクトマーケティングサービスを行う企業への戦略的な投資を行い、お客様への提供価値の向上に努めています。



中東地域統括会社 Ricoh Middle East FTZ



3Dプリンターによる直接製造サービス設備(RICOH Rapid Fab 厚木)

インダストリー事業領域では、スピーディーな経営判断と事業に適した効率的な経営インフラ構築を実現するため、リコーグループ内に分散しているリソースを再編し分社化しました。2014年10月1日にリコー電子デバイス(株)、リコーインダストリアルソリューションズ(株)の新会社2社の営業を開始し、産業用途における新たな価値の創造と効率化を推進するための製品を投入してまいります。

コンシューマ事業領域では、デジタル一眼レフカメラの発売だけでなく、防水アクションカメラの「RICOH WG-M1」等を発売しました。[関連ページ P12](#) また、撮影者を取り囲むすべての空間を切り取ることができる全天球カメラ「RICOH THETA(m15)」では、従来の全天球の静止画撮影に加え動画撮影にも対応し、新しい映像表現の楽しさを提供しております。

さらに新しい分野として、20年以上にわたり蓄積してきた3次元設計の技術をベースに2014年9月に3Dプリン

ト関連事業に参入しました。3Dプリンターの販売に加え、出力サービス、コンサルティング提案を展開することで、お客様のものづくりの現場におけるイノベーションを支援します。また、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献していくため、新たに、「リコー環境事業開発センター」を設立し、エネルギーマネジメントなど環境技術の実証研究やリユース・リサイクル技術の強化・拡大を通して、新規事業の創出を図っています。 [関連ページ P9](#)

Q 18次中計の1年目の業績をどのように評価していますか

2014年度のリコーグループ連結売上高は前年度に比べ1.7%増の2兆2,319億円、営業利益は前年度に比べ3.8%減の1,157億円となり、当初の事業計画を達成できませんでした。これはオフィス事業領域における競争激化による収益悪化と、将来に向けた投資と新興国・サービス体制強化費用の増加が主な要因となっております。しかしながら、お客様に新しい価値を提供するための施策や構造改革による効率化は着実に進展しています。

2015年度の財務目標

Q 2015年度の目標値を教えてください。

18次中計の基本戦略を実行し、2015年度は右記の財務目標を目指します。



■ 2015年度の目標値

売上高	2兆4,000億円以上
営業利益	1,400億円以上
営業利益率	5.8%以上
ROE	8.0%以上

1ドル=120円、1ユーロ=125円

今年度は18次中計の2年目となる重要な年です。2015年度の事業計画を達成するために、リコーグループの総力を集結して挑戦していかなければなりません。全従業員と経営陣が一丸となって「オフィス事業領域での収益力の強化と成長」と「新たな事業の柱の構築」を実現してまいります。

決算 レポート 2014年度 連結決算

売上高

国内は、カラー複合機の伸長や産業分野の増加があったものの、前年度のパソコン買替需要の反動を受けネットワークシステムソリューションの売上が大きく減少し売上高は前年度に比べ7.2%減少しました。

海外は、為替の影響に加え、カラー複合機の伸長や事業買収の影響が寄与し売上高が前年度に比べ7.9%増加しました。

その結果、国内外合計の売上高は22,319億円と前年度に比べ1.7%の増加となりました。

営業利益、株主資本 当期純利益率(ROE)

カラー複合機の伸長やグループあげでの構造改革活動の成果はあったものの、為替や買収の影響等により、営業利益は1,157億円と前年度に比べ3.8%の減益となりました。

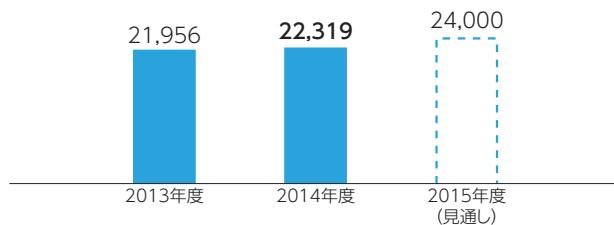
営業利益の減少により、株主資本当期純利益率(ROE)も前年に比べ1.0ポイント低下し6.5%になりました。

1株当たり配当金

期末配当金は17.0円とし、年間配当金は前年度と比べ1円増配の34円とさせていただく予定です。2016年3月期の配当金は、1円増配の年間35円を予定しています。

● 売上高

(億円)



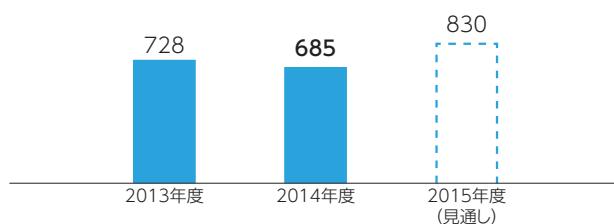
● 営業利益

(億円)



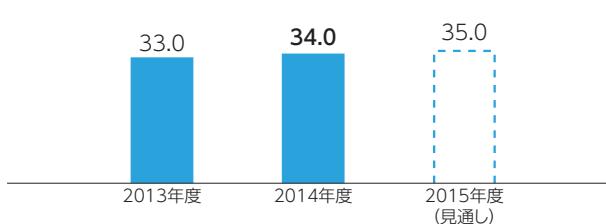
● 当期利益 (親会社の所有者に帰属)

(億円)



● 1株当たり配当金

(円)



* 2014年度より、従来の米国会計基準 (US-GAAP) に替えて国際会計基準 (IFRS) を適用しております。これに伴い2013年度の実績を遡及修正しております。

● 分野別売上高

売上高 構成比 対前年度伸び率

■ その他分野

1,169億円 5.3%

-3.2%

- デジタルカメラ市場縮小の影響でカメラ事業の売上高が前年度に比べ減少しました。

■ 産業分野

1,177億円 5.3%

+7.1%

- サーマル、インダストリー事業等の売上高が前年度に比べ増加しました。

■ 画像&ソリューション分野

19,972億円 89.4% +1.6%

■ ① オフィスイメージング

15,097億円 67.6% +2.2%

- 円安の影響に加え、前年度に発売したカラー複合機が国内外ともに伸長したことに伴い、売上高が増加しました。

■ ② プロダクションプリンティング

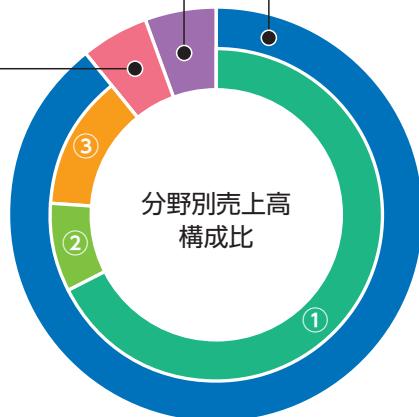
1,919億円 8.6% +6.6%

- 前年度に発売したカットシートのカラー機の関連消耗品やサービス等が国内外ともに好調に推移し、売上高が増加しました。

■ ③ ネットワークシステムソリューション

2,954億円 13.2% -4.1%

- 海外において米国mindSHIFT社の買収やインドでのITサービス拡販効果等が寄与したものの、国内において前年度のパソコン買替需要増大の反動を受けた影響により、売上高が減少しました。



● 地域別売上高

売上高 構成比 対前年伸び率

■ その他

2,109億円 9.4%

+15.7%

■ 欧州・中東・アフリカ

5,323億円 23.9%

+2.6%

■ 日本

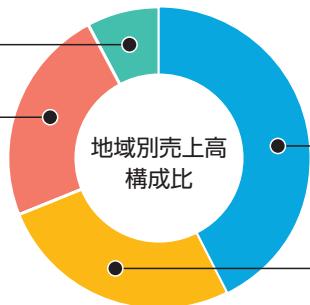
8,401億円 37.6%

-7.2%

■ 米州

6,485億円 29.1%

+10.1%



環境事業による環境経営の強化

リコーは、環境保全と利益創出を同時に実現する「環境経営」に取り組んでおり、事業所省エネ活動や環境対応製品開発に加え、環境事業によるさらなる環境経営の強化を行っています。

2014年12月には、リコークリエイティブサービス(株)がリコーとリコー電子デバイス(株)のそれぞれと推進した省エネ活動に対して、地球温暖化の防止に顕著な功績があったとして、環境省の「平成26年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」(対策活動実践・普及部門)を受賞しました。

また、デジタルフルカラー複合機[RICOH MP C2503/C1803シリーズ](2013年12月発売)が、2015年1月に財団法人省エネルギーセンター主催「平成26年度「省エネ大賞」の製品・ビジネスモデル部門において「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。



RICOH MP C2503Z SFP

同製品は、クラウド連携、スキャナー高速読み取り、スリープモードからの短時間復帰などの高い生産性や、使いやすさを実現しながら、省スペース・省エネ・省資源を可能にした環境配慮型製品です。また、業界初の針なしで綴じられるフィニッシャー(ステープラー)を用意(オプション)。省資源に貢献するとともに、紙のリサイクルにも適しています。



針なし綴じステープラー

さらに環境事業を強化するため、「リコー環境事業開発センター」を静岡県御殿場市に開所しました。環境技術の実証研究やリユース・リサイクル技術の実践・最適化を通じて、これまでの事業領域にとらわれない新規事業の創出を目指し2016年度に本格稼働を予定しています。

サステナビリティレポート2014 環境コミュニケーション大賞 優良賞受賞

2015年2月25日、環境省、地球・人間環境フォーラムが主催する「第18回環境コミュニケーション大賞・環境報告書部門」において「リコーグループ サステナビリティレポート2014」が優良賞を受賞しました。

地球環境問題やコーポレートガバナンス、人権への配慮などのさまざまな要素が企業活動に大きな影響を及ぼしている昨今、ステークホルダー、特に投資家の皆様が企業を評価する上で、財務情報だけではなく「環境」「社会」「ガバナンス」などの非

財務情報も重要視されつつあります。本サステナビリティレポートは、リコーグループの企業価値向上への取り組みとその持続可能性を簡潔に示すべく、さらなる改善を続けていきます。

リコーは、2011年度まで、経済、社会、環境の3つの側面から「アニュアルレポート」「社会的責任経営報告書」「環境経営報告書」をそれぞれ発行していましたが、2012年度からこれらを統合した報告書として「サステナビリティレポート」を発行しています。



■ サステナビリティ評価で高評価を獲得

「Driving Sustainability for our Future. –持続可能な社会を、ビジネスの力で。–」というスローガンの下、事業の拡大・創出を行っています。その結果、グローバルに高い評価をいただいています。

● RobecoSAM

世界の代表的な社会的責任投資(SRI)評価会社で



あるスイスのRobecoSAM社によるサステナビリティ格付けで、「シルバー」クラスに選定されました。(2015年1月)

RobecoSAM社は毎年、世界の大手企業約3,000社を対象に「経済」「環境」「社会」の3つの側面から企業の持続可能性についての評価を行い、「Dow Jones Sustainability Indices」の採用企業を公表しています。その採用企業の中から特に優秀なサステナビリティ先進企業を選定し、業界ごとに「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」のクラスに分けて表彰しています。

リコーは、「経済」分野でR&D(研究開発)含む「イノベーションマネジメント」、「社会」分野で「人材の採用と定着」のそれぞれが業界で最高の評価を獲得し、2014年の「ブロンズ」クラスからランクアップし、2015年は「シルバー」クラスに選定されました。

● oekom

持続可能な投資分野における世界有数のドイツの格付け機関oekom社が実施しているサステナビリティ格付けにおいて「Prime」の評価を受けました。(2015年1月)



リコーが特に高い評価を得ている点は下記のとおりです。

- 製品の再利用やリサイクルに関する包括的ガイドラインの導入や実施
- 省エネ製品の積極的な開発・投入
- 製品の厳しい環境影響化学物質排出基準への準拠
- 製品の回収/リユース/リサイクル量の増加



セーブ・ザ・メモリープロジェクト終了

リコーは、東日本大震災の復興支援活動の1つとして、津波で失われた写真を被災者の皆様に取り戻していただく「セーブ・ザ・メモリープロジェクト」を推進し、活動を開始した2011年8月から2015年3月末までの累計で9万1,477枚の写真をお返しすることができました。

このプロジェクトは、被災地で見つかり、地方自治体や多くのボランティアの方々の努力で回収された貴重な写真を洗浄し、複合機でデジタル化してクラウド上に保管することで写真を検索しやすいサービスを提供する活動です。このプロジェクトを通して得たノウハウを広く役立てていただきたいという観点から、多面的な情報を包括した「活動の記録」*1をウェブサイト上に公開いたしました。リコーは、このほかにも、被災地の復興を目指したさまざまな支援活動を継続して実施しています。詳細はウェブサイト「東日本大震災復興支援」*2をご覧ください。

リコーグループはこれからも自分たちにできることは何かを問い続け、被災地の産業の再建、復興を願うとともに、広く持続可能な社会の発展に貢献していきます。

*1 <http://jp.ricoh.com/csr/savethememory/>

*2 <http://blog.ricoh.co.jp/shinsai/>



写真のデジタル化



パソコン上で検索

リコーグループでは、さまざまな取り組みを行っています。
ここではその主なものをご紹介します。

1 「RICOH Future House」で体験学習サービスを開始 —日本科学未来館と共同でプログラムを開発—

(株)リコーは、神奈川県海老名駅西口地区に建設中のコミュニケーション施設「RICOH Future House」において、小中学生向けの会員制科学技術体験学習サービスを、同施設のオープン予定に合わせて2015年夏から開始します。プログラムの開発にあたっては、日本科学未来館(以下、未来館)と共同で推進しております。

リコーグループは、「海老名駅西口土地区画整理事業」に2013年4月から参画し、新しいまちづくりのためのソリューション・サービスを提供することで地域社会の発展と成長に貢献しています。

リコーの技術力および研究・開発・設計のリソースや、未来館が持つさまざまな表現方法・コミュニケーション手法などによって、日常生活の科学をテーマに会員の知的好奇心を高め科学技術を体験できるプログラムを開発し提供します。



体験学習プログラムのイメージ

リコーは、メーカーとして培ってきたノウハウを活かした子供向けの科学技術体験学習プログラムの提供を通じて、将来のものづくりを担う科学者・技術者の育成に貢献するとともに、まちづくりという領域において新たな事業創出を目指します。

2 カラープロダクションプリンター 「RICOH Pro C7110S/C7110/C7100S」を発売 —プリントオンデマンドビジネスの可能性を広げる機能を搭載—

リコーは、カラープロダクションプリンターの新製品として「RICOH Pro C7110S/C7110/C7100S」を発売しました。

プロダクションプリンティング市場のお客様においては、近年ますます競争が激化し高画質や高生産性、幅広い用紙への対応力に加え、新たなビジネスを切り開く付加価値の高い印刷物を生産できる製品が求められています。

これらのニーズに対応するため、独自の新開発画像処理技術を採用するとともに、ホワイトトナーとクリアトナー^①に対応(オプション)し、高画質・高付加価値を実現いたします。

このほか連続プリント速度はフルカラー/モノクロともに最大毎分90ページ*の高い生産性を実現しています。また、最大330.2×700mmの長尺印刷にも対応し、バナー、ポスターなど多彩な印刷物の制作を可能としました。

リコーは、今後ともお客様の競争力を高め、お客様のビジネス拡大をサポートしてまいります。

*A4ヨコの場合。RICOH Pro C7100Sは80ページ。

「RICOH Future House」の概要

海老名駅西口の新しいまちのにぎわいと回遊性が創造される象徴的エリアであるプロムナード沿いに建設中の「RICOH Future House」。この施設では次のようなエリアを設けて、さまざまなサービスの提供を計画しています。



RICOH Future House ウェブサイト
<http://jp.ricoh.com/ricohfuturehouse/>



RICOH Pro C7110S(オプションを装着したもの)



ホワイトトナーとは

プロセスカラーでは難しかった濃色紙や透明紙上での表現力が飛躍的に向上します。トナーはオフセットインキに比べ隠蔽性が高く、一度刷りでも鮮やかな印刷が可能です。

クリアトナーとは

印刷面全体に光沢感を与え高級感を出したり、スポット光沢で印刷面を部分的に強調したりすることが可能です。透明性の高さを活かして偽造抑止効果を備えたセキュリティ性の高い印刷物も制作できます。

3 さまざまなシーンに活躍する多彩なカメラを発売

2014年度、リコーグループはお客様の用途に合わせたさまざまなカメラを発売し、お客様のニーズに応え、さらに期待を超える製品を提供していきます。

■小型・軽量デジタル一眼レフカメラ 「PENTAX K-S1」

上位機並みの本格的な撮影性能を備えながら、カメラに関心を持ち始めたお客様にもご利用いただけるモデルです。



■本格防水WGシリーズ初の アクションカメラ 「RICOH WG-M1」

水中やアウトドアを楽しみながら、超広角で臨場感溢れる映像を高画質動画で撮影できる防水アクションカメラ。水深10mの防水性能と高さ2mからの耐落下衝撃性能、マイナス10℃の耐寒性能を備えたアクションカメラです。



別売マウントを使用しヘルメットに装着可

■水深12mで水中撮影が可能なコンパクトデジタルカメラ 「RICOH WG-30 / RICOH WG-30W」

小型軽量ボディに、防水性能を強化し、高感度画質の向上や、フルHD動画撮影に対応。アウトドア環境下での使いやすさと信頼性を高めています。



■防水・防塵・耐衝撃デジタルカメラ 「RICOH G800SE」

防水・防塵・耐衝撃・耐薬品性タイプのデジタルカメラ。

電気、ガス、水道、道路などのインフラ保守管理や災害対策をはじめ、自治体、警察、消防、さらには病院での写真管理など幅広い業務に威力を発揮します。



リコーイメージング ウェブサイト >>> <http://www.ricoh-imaging.co.jp/>

4 「Top100 グローバル・イノベーター2014」に選出 —世界で最も革新的な企業 トップ100社—

リコーは、トムソン・ロイターが、世界で最も革新的な企業や機関を選出する「Top100 グローバル・イノベーター2014」で「世界のトップ100社」に選ばれました。

「特許数」、「成功率」、「特許ポートフォリオの世界的な広がり」、「引用における特許の影響力」の4つの評価軸を基本にして、過去5年間のデータを対象に分析されます。リコーは、この評価軸のうち、特許の出願に対する登録件数の割合を示す「成功率」と、中国、米国、欧州、日本の主要4市場における特許取得のバランスをみる「特許ポートフォリオの世界的な広がり」で高いスコアを獲得したことが今回の選定につながりました。リコーの技術革新に対するグローバルで積極的な取り組みが認められた結果だと考えています。

リコーグループは、知的財産を重要な経営資産のひとつと捉え、今後も、価値ある知的財産の創出を奨励するとともに、事業の保護と成長に貢献する知的財産の獲得と活用に取り組んでまいります。

2014 THOMSON REUTERS
TOP 100
GLOBAL INNOVATORS

● 株主優待のご案内

2015年度の株主優待として以下のようにご案内させていただきます。
【基準日：2015年3月末／9月末】

I 単元(100株)以上保有の全株主様にお送りするもの

		3月末(権利確定)		9月末(権利確定)	
		100株以上1,000株未満	1,000株以上	100株以上1,000株未満	1,000株以上
優待品	卓上カレンダー			○	
	壁掛けカレンダー				○

発送時期：12月上旬～中旬(順次)

II 単元(100株)以上保有の株主様にご応募いただけるもの【抽選】

	3月末(権利確定)		9月末(権利確定)	
	100株以上1,000株未満	1,000株以上	100株以上1,000株未満	1,000株以上
カメラセミナー				○ (20名様)
市村自然塾見学会		○ (15名様)		○ (15名様)
リコーフィル演奏会*		○ (ペア180組360名様)		○ (ペア180組360名様)
ラグビー観戦チケット	○ (ペア500組1,000名様)			
日本科学未来館の招待券	○ (ペア1,000組2,000名様)			
「リコー関連・協賛イベント」グッズ				○

ご案内時期：

*会場等の状況によりご招待数が変動します。

6月初旬
【招集通知に同封】

12月初旬
【RICOH REPORT冬号に同封】

III 全株主様へご案内するもの

●リコー株式を保有されている全株主様に、リコーイメージング(株)のカメラ・双眼鏡等の製品やリコーエレメックス(株)の時計製品を特別価格にてご購入いただける特典をご用意しています。

ご案内時期：6月下旬頃に発送する株主総会決議通知および12月初旬に発送するRICOH REPORT(冬号)とともに年間2回ご案内いたします。

優待スケジュール

基準日

リコーフィル演奏会

市村自然塾見学会

2015年

3月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

(3月権利確定分)

株主総会

未来館招待券発送

ラグビー開幕

● 2014年度株主優待イベントのご報告

当社に対するご理解を深めていただくため、株主の皆様とのコミュニケーションを図る企画を開催いたしました。



市村自然塾見学会ご招待【抽選】

よかった 100.0%

2014年10月18日、14名の株主の皆様にご参加いただき、見学会を実施いたしました。

塾生と一緒に自然塾で採れた野菜中心の昼食をとりました。午後は、塾頭からの説明の後、農作業に精を出す塾生たちを見学いただきました。

株主様のご感想

- 塾生たちののびのびとした明るい姿がよかった
- 子供達が農作業を通して共同生活の体験ができる点が良い



カメラセミナーご招待【抽選】

よかった 100.0%

2015年3月21日、18名の株主の皆様にご参加いただき、デジタル一眼レフカメラ[K-S2]を利用したカメラセミナーを実施いたしました。カメラの使用方法について説明した後、撮影会場「新宿御苑」(東京)にて自由に撮影をしていただきました。午後は、リコー経済社会研究所にて和やかな雰囲気の中、講習会を行いました。

株主様のご感想

- 参加をきっかけに以前よりカメラについて興味をもった
- 自社製品に触れるような企画は継続して欲しい



上記の他、「リコーフィル演奏会ご招待(抽選)」、「全英リコー女子オープングッズプレゼント(抽選)」を実施いたしました。

※株主の皆様からいただきました数々の貴重なご意見を参考に、より良い優待イベントへと改善してまいります。

IRメール配信登録のご案内



株主の皆様へ決算情報やニュースリリース、その他のIR情報を電子メールでお知らせしております。(月1回程度)

ご希望の方は、当社IRサイトよりご登録の手続きをお願いいたします。

※本サービスは携帯電話メールには対応していません。



メール配信内容イメージ

ご登録方法

- 1 「リコー IR」で検索し、IRトップページへ

リコー IR

- 2 こちらの「IRメール配信登録」ボタンよりご登録ください。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
単元株式数	100株	
定時株主総会	毎年6月下旬	
基準日	定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
	中間配当	毎年9月30日
株主名簿 管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL(0120)782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社 の全国各支店で行っております。	

■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■「配当金計算書」について

配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

INFORMATION

ウェブサイトのご案内 <http://jp.ricoh.com/>

当社では、最新のニュースやIR情報、製品情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報をご提供しています。



今後のIRスケジュール(予定)

当社では迅速かつ正確な情報開示を心がけるほか、投資家の皆様に向けたさまざまな活動も行っています。以下は当社の今後のIRスケジュールになります。ご参考の上、引き続きご支援いただけますようよろしくお願いいたします。

なお、予定は予告なく変更される場合がございます。



電子ブック版RICOH REPORT

1年に2回、株主の皆様のお手元にお届けしている「RICOH REPORT」をホームページ上に電子ブックで掲載しています。



株式会社リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込一丁目3番6号
TEL (03) 3777-8111



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

